

令和7年度 福岡市一時預かり事業補助対象事業者選考に係る協議会 議事要旨

【日 時】 令和7年11月17日(月) 13:00~14:20

【場 所】 アクロス福岡6階 会議室605

【協議内容】 事業者ヒアリング、事業者の評価・意見交換等

【出席者】 委員5名 事務局4名

【質疑応答】

応募事業者A

委 員) 非常勤の方がいるが、カンファレンスをする場合どのような形で進めているのか。

事業者) 事前登録を行う際にこどもの状態などを保護者と話をし、当日携わってもらう先生に共有している。2回目以降は、前回預ったときの様子等をカルテに記載し共有している。

委 員) 個別ケースについては、カルテの記載を中心に共有しているということか。

事業者) そのとおり。

委 員) 一時預かりは通常保育との違いがあると思う。一時預かりをやるうえで、気を付けていることなどは。

事業者) 毎日ではなく、単発の預かりが多い。泣いてしまうことが多いが、泣き止んで遊べる時間が一分でもあるように思っている。こどもが好きな遊びを保護者から聞き取りをしたり、手探りで、様々なことを試しながら好みを探っている。保育士が様子を見て好みなどを見つけたら、記録して次回の保育士に引き継ぎしている。

委 員) 保育室の使い分けについて。

事業者) 基本的には広い部屋を一時預かりに利用し、児童の年齢層が異なるときに、小さいこどもと活発に動くこどもを分けて保育するために、もう一つの部屋を使うこともある。基本的に年齢が異なっても一緒の部屋で過ごしているが、状況によって使い分けながら保育している。

委 員) 遊びの時に使うおもちゃについて、おもちゃの選定はどのように行うのか。

事業者) 指先を使うおもちゃなどこどもたちが興味を持てるものを置いている。月極保育で、こどもが興味を持つおもちゃがあれば、それを一時預かりに導入するなど。また、保護者からこどもが興味を持っているおもちゃを聞き、近いものを作ったり置いたりするようにしている。また、保育士の経験を踏まえておもちゃを選ぶなどしている。

委 員) 安全点検はどのくらいの頻度で行っているか。

事業者) 基本的には毎日行っている。消毒時に点検したり、おもちゃを出す前に点検するなど。

応募事業者B

委員) 障がいのあるこどもを対応する保育士は特定の保育士と決めているのか。対応する保育士の人数を変えたりするのか。

事業者) 基本、保育士4名でこども10名を預かっている。必要に応じて1対1で保育士がつくことも可能。個性に応じて見守りをしている。例えば、保育士が近くにいると気になるこどもには、少し距離をとって見守りするなど。初めて預かるこどもには、保育士が一人ついている。

委員) 担当を決めているのか。

事業者) 保育士との相性や、こどもの当日の様子によって違ったりするので、障害のあるお子様の担当を決めてはいない。

委員) 障がいに関して学ぶ機会を作ったりしているか。

事業者) 福岡市の研修や療育センターの研修などに、なるべく参加するようにしている。

委員) 保護者の不適切な保育や虐待を発見した場合の対応は。

事業者) これまで、アザがある、または不衛生なお子様を預かった経験はない。そのようなことがあった場合は、通報や児童相談所に相談することになる。

委員) おもちゃの選定や安全点検の頻度はどのように行っているか。

事業者) 施設長を中心に保育士みんなを選んでいく。また、木のおもちゃの専門店からのアドバイスも参考にしている。消毒は毎日している。

委員) 衛生面について「必要であればアルコールにより消毒を行う」と記載があるが、ノロウイルスのときは、何を使っているか。

事業者) ノロウイルスのときは、漂白液を薄めたものを使うなど、状況に応じて対応している。

委員) インフルエンザなどが流行っている時期に、ほかの時期に比べて気を付けていることは。

事業者) 湿度管理や、職員と子どもの手洗いに気を付けている。また、こどもの顔色を見て、体調不良を早めに発見し、早めにお迎えいただくようにしている。

【総評】

応募事業者A

継続して安定した一時預かりの運営ができており、今後も円滑な運営が期待できる。

応募事業者B

継続して安定した一時預かりの運営ができており、今後も円滑な運営が期待できる。

個人情報管理について、組織的な対応ができる体制の構築が望ましい。